

ニュー ガイメック R工法 (漏水補修)

作業手順

清掃
泥上げ
高圧水洗浄

☆:水路内の空き缶、ごみ、泥等を撤去し、適正に処分する。
洗浄幅は、プライマー塗布幅以上とする。
目地部に着いた「こけ」等は洗浄水圧15MPa～30MPaの高圧洗浄機で洗浄除去する。

湧水処理(止水)
既存目地欠落補修

☆:湧水は止水セメント、急結モルタルを使用し確実に止水する。
水の浸入・流入には十分に配慮し確実に止水する。
既存目地が欠落している箇所はモルタルを充填する。

プライマー塗布

☆:プライマー 塗布
中塗り・上塗りの塗布幅以上に塗布し、液だれや塗り残し(かすれ)の無いように刷毛等で均一に塗布する。
モルタル補修のモルタルが完全な硬化前でもプライマー塗布しても良い。
ガイメックプライマーは水環境に長期間さらされても接着強さは低下しません。
(溶剤を含まず環境、人体への影響もありません)

中塗り

分量: プライマーに適量の普通セメントを混ぜ、
左官ブラシで細部のクラックまでモルタルを充填する。
※目安分量 プライマー1kgに対し普通セメント2kg

上塗り

☆:中塗りは重要作業なのでモルタル、プライマー等の下地が完全乾燥を確認する。
ガイメック 1(重量)
ガイメックモルタル 1(重量) これらの配合で攪拌機にて攪拌する。
幅は8cm以上を確保するよう刷毛で均一に塗る。(気泡・ムラが無いよう入念に塗布する) 完全乾燥するまで次の作業工程に移らない。

養生

☆:上塗りは厚みを確保するがために行う。中塗りが指圧にて剥れる箇所は剥がす。(湧水が有り、中塗りの乾燥が不十分。再度止水し、中塗り作業を行う)
ガイメック 1(重量)
ガイメックモルタル 1(重量) 中塗りと同じ配合で攪拌機にて攪拌する。
厚みは2～3mm程度とする。5mm以上になると極端に硬化速度が落ちる。

完了

養生期間中に降雨等で水が溜まった場合、ブロワーもしくは動力散布機などで水分を吹き飛ばし、スポンジ等で、たまり水を撤去すれば、硬化を促進できます。
表面の皮膜乾燥後に多少の降雨があっても水処理を行えば正常に硬化します。



ガイメック R工法

使用資材

ニューガイメック(18kg/缶)

プライマー(18kg缶)

ガイメックモルタル(25kg/袋)

普通セメント(25kg/袋)



※ 中塗り・上塗り作業

ニューガイメック 1kg

ガイメックモルタル 1kg

冬季施工の場合

5℃以下では施工しない。



資材混合 1:1 重量比

ニューガイメック 1kg

ガイメックモルタル 1kg



資材攪拌状況

ハンドミキサーにて攪拌

2分以上攪拌する。

混練りしたモルタルは1時間以内に使う。





※ プライマー塗布作業

プライマー 1kg
普通セメント 2kg

プライマー 1kg



普通セメント 2kg



資材混入 1:2 重量比

プライマー 1kg

普通セメント 2kg



資材攪拌状況

ハンドミキサーにて攪拌



作業手順

① 水路内清掃・側溝清掃工

空き缶、ごみ、泥 等は適正に処分する。



② 高圧水洗浄作業(30Mpa)

(15Mpa~30Mpa)

目地部についたコケ等は確実に除去する。
(高圧洗浄機のガンの口はトルネードノズル
回転式のものが多い)



洗浄後

ブロワーで水気を飛ばす。
(動力噴霧器でも可)

③ モルタル補修

(ゴムべら使用)



欠損目地

空隙を埋める。普通モルタル可能
湧水がある場合

止水セメントで確実に止水する。

作業手順

④ プライマー塗布作業 (左官ブラシ使用)



左官ブラシ等で均一に塗布する。
細部のクラックまで充填する。



⑤ 中塗り作業 (刷毛使用)



プライマーが完全に乾いているのを
確認してから中塗り作業を行う。

プライマーが完全に乾いているのを
確認してから中塗り作業を行う。

中塗り状況

プライマーの塗布幅以内で塗布する。



中塗りが完全に乾くのを確認して
次の上塗り作業に入る。

作業手順

⑥ 上塗り作業 (刷毛使用)



上塗り状況



厚みの確保
塗りむら修正

上達してくると二度塗り(中塗り、上塗り)の必要はない。
中塗りのみでの施工も可能。



完成

完成



完成